

右の奇談は即ち新井君美が白石紳書に載せたり。白石先生の傳話といへども、夢物語のやうにて古蹟の徵證ともなし難し。去りながら金澤春日社に傳へたる、鳴波瀧の俗談の考證とすべきか。鳴るは瀧といふ名も、三養雜記に、なるは瀧の水といふは、いにしへのものを祝ふことにいへるはやし詞と見たり。拾葉抄には、當世酒宴に三國一じやといふが如く、むかしは酒宴になるは瀧の水をうたひしなりといへり。平家物語の額打論に、二人つと走り出で、延曆寺の額をきつておとし、さんくんにうち破り、うれしや水、なるは瀧の水、日はてるともたえずたりとはやしつゝ、南都の衆徒の中へぞ入りにける。とあり。このはやし詞、源平盛衰記・義經記などにも見たり。日はてるともたえずたりといふこのたうたりは、水のたうくと流るゝといふに同じ詞なり。陸士衛が歎逝賦に、水滔々而日度。註に滔々水流貌とありといへり。されば此の金澤春日社にいひ傳へたる鳴は瀧の名も、彼のはやし詞よりいひ出でたる名にして、瀑の名とせしは後人の呼びそめし俗名なるべし。但し今尙おもふに、舊本今昔物語卷十五に、仁和寺の

西に鳴瀧といふ所ありと載せたる鳴瀧をば、一本には鳴は瀧とす。然れば鳴波瀧と呼べる瀑の名も、ふるくよりありし事知られけり。去りながら加州河北郡なる鳴波瀧の名は、舊記等にはいまだ見當らず。

○春日山

此の春日山と呼べるは、小坂神社の神山にて、卯辰山の尾繼きなれば、則ち卯辰山の小名なり。往古より此の山脚に三笠山の春日大神を勧請せし社殿あるにより、春日山と稱せしもの也。故に彼の境内なる少彦名神祠の碑文にも、金城之東有山。稱曰春日。乃置春日神廟以鎮焉。と記載せり。道のともしと號する俳書に、

此神の山なればこそ花に鹿 北枝

此は春日社奉納の句なり。そもや、八十年の星霜を経たれば、

花に見し鹿の行衛も秋悲し 後川

○春日山古墟

小坂神社の傍なる岳山をば、里俗相傳へて、昔上田伯耆といふ人の居住せし城跡なりといへり。上田伯耆なる人は舊

記に所見なし。若しくは坪坂伯耆などをば傳へ誤りたるにや。柴野美啓曰く、大樋町の陶師長左衛門が家に古き系圖あり。文中に上田の土を取りて陶器を製造し初めたる由書き載せたり。上田は春日山の小名なるかといへり。

○帝慶山

享保十二年の春日社記に云ふ。談議所離宮奉號武雄社。影向峰在天賀谷東。又曰明星山。俗稱中山。山上者帝慶山麓之邑名。など、載せたり。今雅人春日山の紅葉を賞し、帝慶山の紅葉と稱し、卯辰山八景の一とす。三州志來因概覽に云ふ。春日山を帝慶山と云ひ、粟崎湖をば大滑湖と云ふは、吾が松雲公詩賦の爲に名づけ唱へさせ給ふものにて、詩料の良材なりといへり。

○天賀谷

龜尾記に云ふ。天賀谷は帝慶山の邊りにて、鳴は瀧の舊地の側也。此地邊はいにしへ台密の佛閣多かりけん、今も獨鈷金佛など掘出す事ありと春日の社家語りき。されば天賀谷の名も天蓋谷の意にて、旗天蓋を捨てし谷ならんかといへり。

○大師塚

大師塚は上田伯耆の古城のつゞきにて、天賀谷の邊り也。龜尾記に云ふ。何人の墳墓なるか詳かならず。近年此墳墓を掘り見しに、石の帶曲玉壺或は水晶などの玉をば葛籬に三杯ばかりも掘り出したり。其餘瑠璃の珠などもありたりとて持傳ふるもの此邊にありと。さらば高位高官の人の古墳にて、いと上代よりの墳墓なるべし。といへり。按に大師塚の名はいかなる由縁ならんか。此の地邊は河北郡戸室山・醫王山の山脚なれば、若しくは彼の泰澄大師の墳墓にてもあらんか。泰澄が醫王山に籠居せし事は、永正五年に撰述せし白山禪定私記に、泰澄大師は文武天皇大寶二年壬寅の生年、廿一歳護國家法師越德と宣下ありて、その後加賀の國醫王山の巖窟に移り住して、只一人觀念して日を送る處に、能登嶋より沙彌一人來現す云々。と見わ、土屋養休の金城隆盛私記には、元正天皇之御宇養老元丁巳歲、越泰澄大師在加州醫王山、蒙神勅坐於一心觀念石川郡河内庄白山麓下白山舟岡山南妙法岩窟安久瀨淵之上。といひ、河合良温の湯涌温泉記には、俗傳。養老年間僧泰澄披袈裟於硫黃之山也。遂到此。曰後世知我者觀于此。乃